

### 第3回中之島映像劇場

「全体芸術の試み 無声映画＋音楽演奏＋弁士の語り」

—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による—



カール・ハイッツ・マルティン

《朝から夜中まで》(1921年／69分)



伊藤大輔

《御詠治郎吉格子》(1931年／80分)

【日時】 2012年3月24日(土)、25日(日)両日とも13時、15時から開始

A、Bの2プログラム編成(各プログラム冒頭に解説あり[10分])

	3月24日(土)	3月25日(日)
13時	Aプログラム 《御詠治郎吉格子》 (音楽:柳下美恵)	Bプログラム 《朝から夜中まで》 (音楽:柳下美恵)
15時	Bプログラム 《朝から夜中まで》 (活弁:澤登翠／音楽:柳下美恵)	Aプログラム 《御詠治郎吉格子》 (活弁:澤登翠／音楽:柳下美恵)

【会場】 国立国際美術館 B1 階講堂

入場無料／全席自由／先着130名(午前10時より整理券を配布／1名様につき1枚)

各プログラム入れ替え制となります

音楽:柳下美恵(全プログラム担当)

活弁:澤登翠(各日15時の回のみ担当)

#### 全体芸術の試み

第3回「中之島映像劇場」では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により、音楽と弁士による説明(活弁)とを伴った形で、センター所蔵の古典的名作を35mmフィルムで上映します。いにしへの無声映画全盛期の再現となるでしょう。

美術館の企画として、これはさらに別の意味を持つといえます。

1922 年、イタリア生まれの映画人、リッチョット・カニュードは有名な「七つの芸術宣言」を著し、その中で「他の全ての芸術が絶えず向かっていた全体芸術を創造するために、映画を必要とする」と述べました。建築と音楽があり、それぞれが絵画と彫刻、詩と舞踏をたずさえている。そして映画こそ、これらを並立させる「第七芸術」となる。つまり「動く絵」であり、それこそ「リズムを持つ芸術の規範に従って展開する造形芸術」なのです。

私たちは、このようにカニュードが映画(映像メディア)に期待した「全体芸術」のその後の展開を知っています。1960 年代以降の「拡張映画」(Expanded Cinema)や 1970 年大阪万博の数々の実験、そして現在の VJ(ヴィジュアル・ジョッキー)などが挙げられます。今回の企画は、「全体芸術」についての美術館における 1 つの試み／挑戦です。

### 【上映作品】

A プログラム 《御詠治郎吉格子(おあつらえじろきちごうし)》

日本／1931 年／80 分／監督:伊藤大輔／撮影:唐沢弘光

時代劇映画を築きあげた巨匠、伊藤大輔(1898～1981 年)が監督した、昭和初期を代表する作品の中で現存する数少ないもの。主人公、鼠小僧次郎吉を演じるのが、大河内傳次郎。大阪を舞台とした、次郎吉をめぐる恋愛物語となっています。

B プログラム 《朝から夜中まで》Von morgens bis mitternachts

ドイツ／1921 年／69 分／原作:ゲオルグ・カイザー(Georg Kaiser)／監督:カール・ハインツ・マルティン(Karlheinz Martin)／撮影:カール・ホフマン(Carl Hoffmann)

ドイツ表現主義演劇の影響下に作られた映画作品。銀行の金を着服したあげく、破滅する出納係の物語。日本では同じ原作を築地小劇場が舞台化しています(1924[大正 13]年 12 月。ちなみに村山知義が担当した舞台美術は、当時大変な評判となりました)。

### 【活弁】

澤登翠(さわと・みどり／各日 15 時の回を担当)



プロフィール:

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本を代表する弁士として国内はもとよりフランス、アメリカほかの海外公演を通じて、「弁士」の存在をアピールし高い評価を得ている。「伝統話芸・活弁」の継承者として「活弁」を現代のエンターテインメントとして甦らせ、文化庁芸術祭優秀賞ほか数々の賞を受賞している。適確な作品解釈による多彩な語り口で、いままでに 500 本以上の様々なジャンルの無声映画の活弁を務めている。著書に『活動弁士 世界を駆ける』(東京新聞出版局／2002 年)がある。

## 【音楽】

柳下美恵(やなした・みえ／全プログラム担当)



プロフィール:

無声映画伴奏者。武蔵野音楽大学器楽科(ピアノ専攻)卒業。1995 年、朝日新聞社主催の映画生誕 100 年記念上映会でデビュー以来、国内外の映画祭、上映会などで公演。紀伊國屋書店クリティカル・エディション・シリーズ《裁かるるジャンヌ》《魔女》の音楽を担当。本格的な国際デビューとなった 2010 年のポルデノーネ無声映画祭(イタリア)では、島津保次郎監督の 4 時間に及ぶ長篇などに挑戦し、絶賛を博した。2006 年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞。NPO 法人 映画保存協会正会員。映画に集中できる伴奏を心がけている。

## 【中之島映像劇場】

国立国際美術館では 1989 年から映像作品の収集に取り組み、常設展示場で公開していました。近年、中之島に移転してからは定期的な上映会の形を取っています。さらに 2008 年には「Still/Motion 液晶絵画」展を開催し、絵画と映像とが交錯し合う現代の美術表現に光を当てました。さらなる展開を図ろうと、昨年、2011 年の 3 月から「中之島映像劇場」と名付けました。メディアに立脚した、言葉の最も広い意味での「美術と映像」の歴史的な変遷を探り、現代の状況の解明を試み、さらには今後の動向をも予示出来ればと願っています。